

## 安全データシート

### 1. 化学品及び会社情報

|             |                       |
|-------------|-----------------------|
| 化学品の名称      | ：ガスチェッカー検知一番          |
| 会社名         | ：アックスプレーン株式会社         |
| 住所          | ：大阪府大阪市西区立売堀3-4-24    |
| 担当部門        | ：営業部                  |
| 電話番号        | ：06-6534-7665         |
| FAX番号       | ：06-6534-5526         |
| 緊急連絡先       | ：06-6534-7665         |
| 推奨用途及び使用の制限 | ：機械・配管系統の接合部等のガス漏れの発見 |

### 2. 危険有害性の要約

|                      |       |
|----------------------|-------|
| GHS分類                |       |
| 物理化学的危険性             |       |
| エアゾール                | ：区分3  |
| 健康に対する有害性            |       |
| 眼に対する重篤な損傷<br>性/眼刺激性 | ：区分2A |
| 環境に対する有害性            |       |
| 水生環境有害性<br>短期（急性）    | ：区分3  |

上記で記載がないものは、「区分に該当しない」、「分類できない」に該当する。

#### GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



|         |                                                                                                                                  |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 注意喚起語   | ：警告                                                                                                                              |
| 危険有害性情報 | ：高圧容器：熱すると破裂のおそれ<br>：強い眼刺激<br>：水生生物に有害                                                                                           |
| 注意書き    |                                                                                                                                  |
| 安全対策    | ：熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。<br>：使用後も含め、穴をあけたり燃やしたりしないこと。<br>：取扱い後は、接触した部分をよく洗うこと。<br>：保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面/聴覚保護具を着用すること（推奨）。 |
| 応急措置    | ：眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。<br>：目の刺激が続く場合は医師の診察/手当を受けること                                |
| 保管      | ：日光から遮断し、40℃以上の温度にばく露しないこと。<br>：換気の良い場所で保管すること                                                                                   |
| 廃棄      | ：内容物を使い切り容器を各都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。                                                                                              |

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

| 化学名又は一般名            | 含有率<br>(%) | CAS番号      | 化審法                  | 安衛法     |
|---------------------|------------|------------|----------------------|---------|
| アルファオレフィンスルホン酸ナトリウム | < 1        | 11066-21-0 | 2-1639、2-2807、9-2038 | 非該当     |
| 無機酸アミン塩             | < 1        | 非公開        | 情報を有しない              | 情報を有しない |
| 防錆剤                 | < 1        | 非公開        | 情報を有しない              | 情報を有しない |
| 噴射剤                 | < 1 0      | 124-38-9   | 1-169                | 非該当     |
| 精製水                 | 残り         | 7732-18-5  | 非該当                  | 非該当     |

### 4. 応急措置

- 吸入した場合** : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
: 医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合** : 多量の水と石けんで洗うこと。  
: 直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと/取り除くこと。  
: 皮膚刺激が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。  
: 気分が悪いときは、医師に連絡すること。
- 眼に入った場合** : 清浄な水で数分間注意深く洗うこと。  
: 次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は、外すこと。  
: その後も洗浄を続けること。  
: 眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合** : 口をすすぐこと、無理に吐かせないこと。  
: 医師に連絡すること。
- 急性症状および遅発性症状の最も重要な兆候症状** : 眼の発赤、刺激、痛み、吸入による咳、頭痛、疲労感、めまい、など。
- 応急措置をする者の保護** : 救助者は、状況に応じて保護具（保護マスク、保護手袋等）を着用する。
- 医師に対する特別な注意事項** : 情報なし

### 5. 火災時の措置

- 消火剤** : 散水または噴霧水、炭酸ガス（密閉容器を冷却し容器内圧を上げないもの）。
- 使ってはならない消火剤** : 情報を有しない。
- 特有の危険有害性** : 加熱により容器が爆発する恐れがある  
: 内容液等が放出する恐れがある  
: 火災時には刺激性、毒性及び腐食性のガスを発生する恐れがある。
- 消火方法** : 作業は風上から行い、有毒なガスの吸入を避ける。  
: 容器が熱に晒されている場合は移さない。  
: 危険でなければ可燃性の物を周囲から素早く取り除くこと。  
: 移動不可能な場合、容器および周囲に散水して冷却すること。  
: 冷却後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却すること。
- 消火を行う者の保護** : 適切な保護具（耐熱着衣、保護眼鏡等）を着用し呼吸用保護具を装着する。  
: 消火活動は十分距離を取って風上から行う。

### 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置** : 付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を素早く取り除き、風下の人を非難させ、関係者以外の立ち入りを禁止する。風上に留まる。  
: 漏れ発生時（噴出時）には風上より処置を行い、容器の漏出部は上向きにし、ガスを完全に噴出させてから処置をする  
: 蒸気、ガス、粉じんの吸入及び皮膚や眼への接触を避ける。  
: 屋内で漏出した場合は、十分に換気を行うこと。
- 環境に対する注意事項** : 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意すること。

封じ込め及び浄化方法及び機材

：漏出液を密閉式の容器に集め、残留分を土、砂、おがくず、ウエス等に吸収させて安全な場所に移す。残りはウエスや雑巾で拭き取ること。

：少量の場合は砂、おがくず、ウエス等で吸収し、密栓できる容器に回収すること。

：大量の場合は盛土で囲い流出を防止し、安全な場所に導いて回収すること。

二次災害の防止策

：近くでの喫煙、火花、火気の禁止。

：漏出液を排水口や下水溝等への流入を防ぐ。

：廃棄物は関係法規に従い処理すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策（推奨）

：静電気対策のため、設置等は設置し、電気機器類は防爆型を使用すること。

：適切な保護具を着けて作業すること。

安全取扱注意事項

：容器は注意して取扱うこと。

：ミストを吸入しないこと。

：皮膚、眼との接触を避けること。

：眼と接触した場合は直ちに多量の水で洗い、医師の診断を受けること。

：すべての汚染された衣類を直ちに脱ぐこと。

：皮膚と接触した場合は、直ちに多量の水又は石鹼水で洗うこと。

：屋外又は換気の良い場所でのみ取扱うこと。

：密閉された場所における作業には、十分な局所廃棄装置を設置しなければならない。

：火の中に入れないこと。

：温度が40℃以上の場所では、容器の破裂の恐れがあるため、取扱わないこと。

：容器を転倒、落下させたり、衝撃又は引きずる等乱暴な取扱いをしないこと。

適切な衛生対策

：使用時には飲食しないこと。

：取扱い後は手洗いを十分に行うこと。

接触回避

：情報を有しない。

安全な保管条件

：熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。禁煙。

保管

：容器は、直射日光や火気を避けること。

：容器を密栓して換気の良い涼しい場所で保管すること。

：施錠して保管すること。

技術的対策

：保管施設は、排水へのアクセスのない構造とすること。

混触危険物

：情報を有しない。

安全な容器包装材料

：情報を有しない。

8. 暴露防止及び保護措置

| 化学名又は一般名                | 管理濃度 | 許容濃度・管理濃度                |                                     |
|-------------------------|------|--------------------------|-------------------------------------|
|                         |      | 日本産業衛生学会                 | 許容濃度<br>A C G I H                   |
| アルファオレフィン<br>スルホン酸ナトリウム | 未設定  | 吸入性粉塵 2mg/m <sup>3</sup> | TLV-TWA<br>吸入性粉塵 3mg/m <sup>3</sup> |
|                         |      | 総粉塵 8mg/m <sup>3</sup>   | 総粉塵 10mg/m <sup>3</sup>             |
| 噴射剤                     | 未設定  | 5,000ppm                 | 5,000ppm                            |
|                         |      | 9,000mg/m <sup>3</sup>   | TLV-STEL 3,000ppm                   |

設備対策

：排気装置を付けて蒸気が滞留しないようにする。

：ばく露防止のために局所排気装置などを設置する。

保護具（推奨）

呼吸器保護具

：適切な保護具を使用すること。

手の保護具

：不浸透性の保護手袋を使用すること。

眼の保護具

：保護面、保護眼鏡を使用すること。

身体の保護具

：不浸透性の保護衣を使用すること。

| 9. 物理的及び化学的性質 |       | 原液       | 噴射剤         |
|---------------|-------|----------|-------------|
| 外観            | 物理的状態 | ：無色      | ：常温では無色透明   |
|               | 形状    | ：液体      | ：気体         |
| 融点            |       | ：0℃      | ：-56.56℃    |
| 沸点            |       | ：100℃以上  | ：-78.5℃     |
| 引火点           |       | ：引火しない   | ：情報を有しない    |
| 発火点           |       | ：情報を有しない | ：情報を有しない    |
| 爆発限界          | 下限    | ：情報を有しない | ：情報を有しない    |
|               | 上限    | ：情報を有しない | ：情報を有しない    |
| 比重            |       | ：約1.000  | ：0.720±0.02 |
| 水への溶解度        |       | ：可溶      | ：僅かに可溶      |

|              |                                                      |
|--------------|------------------------------------------------------|
| 10. 安定性及び反応性 |                                                      |
| 反応性          | ：情報を有しない。                                            |
| 安定性          | ：通常の取扱い条件では安定である。                                    |
| 危険有害反応性      | ：2,000℃以上に加熱すると分解し、有毒な一酸化炭素を生じる。<br>：熱で容器が破裂することがある。 |
| 避けるべき条件      | ：高温、着火源との接触。<br>：高温多湿な場所での保管及び火気付近での使用。              |
| 混触危険物質       | ：情報を有しない。                                            |
| 危険有害な分解生成物   | ：燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素等の有毒ガスが発生する可能性がある。                 |

|                  |                                                                                                                      |
|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 11. 有害性情報        |                                                                                                                      |
| 健康に対する有害性        |                                                                                                                      |
| 急性毒性（経口）         | ：区分3・・・防錆剤（毒性値=77.0mg/kg 出典：SDS）<br>区分3成分を濃度限界1％以上含有しないため分類区分は「区分に該当しない」。                                            |
| 急性毒性（経皮）         | ：区分4・・・アルファオレフィンスルホン酸ナトリウム（変換値=1,100mg/kg 出典：SDS）<br>区分4成分を濃度限界1％以上含有しないため分類区分は「分類できない」。                             |
| 急性毒性（吸入：蒸気）      | ：データ不足のため分類区分は「分類できない」。                                                                                              |
| 急性毒性（吸入：粉塵、ミスト）  | ：分類区分は「分類できない」。                                                                                                      |
| 皮膚腐食性/刺激性        | ：アルファオレフィンスルホン酸ナトリウムを濃度限界1％以上含有しないため分類区分は「分類できない」。                                                                   |
| 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 | ：区分1・・・アルファオレフィンスルホン酸ナトリウム（出典：SDS）<br>：区分2A・・・防錆剤（出典：SDS）<br>10×（眼区分1＋皮膚区分1）＋眼区分2Aの成分合計が濃度限界（10％）以上のため、分類区分は「区分2A」。  |
| 呼吸器感作性           | ：データ不足のため分類区分は「分類できない」。                                                                                              |
| 皮膚感作性            | ：データ不足のため分類区分は「分類できない」。                                                                                              |
| 生殖細胞変異原性         | ：区分2成分を濃度限界1％以上含有しないため分類区分は「分類できない」。                                                                                 |
| 発がん性             | ：データ不足のため分類区分は「分類できない」。                                                                                              |
| 生殖毒性             | ：区分2成分を濃度限界3％以上含有しないため分類区分は「分類できない」。                                                                                 |
| 特定標的臓器毒性（単回暴露）   | ：区分1・・・防錆剤（臓器=血液 出典：SDS）<br>：区分3・・・噴射剤（臓器=麻酔作用 出典：SDS）<br>区分1成分を濃度限界1％以上含有しておらず、区分3成分を濃度限界20％以上含有しないため分類区分は「分類できない」。 |
| 特定標的臓器毒性（反復暴露）   | ：区分2・・・防錆剤（臓器=血液 出典：SDS）<br>区分2成分を濃度限界1％以上含有しないため分類区分は「分類できない」。                                                      |
| 誤えん有害性           | ：液体、個体の誤えんに係わるものであり、エアロゾルミストのように気相に浮遊した状態で気道・呼吸器に吸入される場合は「分類対象外」。                                                    |

1 2. 環境影響情報

環境に対する有害性

|                   |                                                                                                                                                                                                                   |
|-------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 水生環境有害性<br>短期（急性） | ： 区分1・・・防錆剤（毒性値（魚類）=0.54mg/l 毒性値（甲殻類）=なし<br>毒性値（藻類）=なし 出典：SDS）<br>： 区分2・・・アルファオレフィンスルホン酸ナトリウム（毒性値（魚類）=<br>なし 毒性値（甲殻類）=なし 毒性値（藻類）=なし 出典：SDS）<br>加算法（毒性乗率×100×区分1）+（10×区分2）+区分3の計算<br>結果が、濃度限界（25%）以上のため分類区分は「区分3」。 |
| 水生環境有害性<br>長期（慢性） | ： 区分1・・・防錆剤（毒性値（魚類）=なし 毒性値（甲殻類）=なし<br>毒性値（藻類）=なし 急速分解性=不明 出典：SDS）<br>加算法（毒性乗率×100×区分1）+（10×区分2）+区分3の計算<br>結果が、濃度限界（25%）以上含有しておらず、未知成分を10%以上<br>含有しているため分類区分は「分類できない」。                                             |
| オゾン層への有害性         | ： データ不足のため分類区分は「分類できない」。                                                                                                                                                                                          |

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物・  
汚染容器及び包装

|                                                                                         |
|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| ： 中身を使い切ってから、火気のない戸外で噴射音が消えるまでボタン<br>を押し、ガスを完全に抜くこと。<br>： 関連法規制並びに地方自治体等の基準に従って適切な処分を行う |
|-----------------------------------------------------------------------------------------|

1 4. 輸送上の注意

国際規制

|                          |                            |
|--------------------------|----------------------------|
| 国連番号                     | ： UN 1950                  |
| 品名（国連輸送名）                | ： エアゾール（非引火性のもの、1 Lを超えない）。 |
| 国連分類（輸送における<br>危険有害性クラス） | ： 2.2                      |
| 容器等級                     | ： 非該当                      |

国内規制

|         |                                                                                                                                   |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 陸上規制情報  | ： 定められている運送方法に従うこと。                                                                                                               |
| 海上規制情報  | ： 定められている運送方法に従うこと。                                                                                                               |
| 航空規制情報  | ： 定められている運送方法に従うこと。                                                                                                               |
| 特別の安全対策 | ： 取扱い及び保管上の注意事項に従うこと。<br>： 容器に漏れのないことを確認し、落下、転倒、破損がないように積載し、<br>に崩れ防止を確実に行うこと。<br>： 運送に際しては、容器を40℃以下に保ち、落下、転倒、破損がないように<br>注意すること。 |

1 5. 適用法令

|           |                                                 |
|-----------|-------------------------------------------------|
| 消防法       | ： 非危険物                                          |
| 労働安全衛生法   | ： 3. 組成及び成分情報参照                                 |
| 有機則       | ： 非該当                                           |
| 特化則       | ： 非該当                                           |
| 化審法       | ： 3. 組成及び成分情報参照                                 |
| P R T R 法 | ： 非該当（第1種：アルファオレフィンスルホン酸ナトリウム・・・1%未満<br>のため非該当） |
| 毒物及び劇物取締法 | ： 非該当                                           |
| 腐食性液体     | ： 非該当                                           |
| 船舶安全法     | ： エアゾール（容量1 L 未満） 高压ガス、非引火性非毒性高压ガス              |
| 航空法       | ： エアゾール 高压ガス                                    |

---

## 16. その他の情報

### 参考文献

：職場のあんぜんサイト（GHS対応モデルラベル・モデルSDS情報）  
：緊急時応急措置指針  
：国際化学物質安全性カード（I C S C）  
：作業環境評価基準  
：日本産業衛生学会  
：TLVs and Bels（ACGIH）  
：法規制物質リスト（日本ケミカルデータベース）  
：ケミカルデータベース（日本ケミカルデータベース）  
：NITE-化学物質管理（製品評価技術基盤機構）  
：原材料のSDS

- ・ 本安全データシートは現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成していますが、記載のデータや評価に関しては、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。
- ・ 記事事項は通常の取扱いを対象にしたものでありますので、特別な取扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した保安対策を実施の上、ご利用ください。
- ・ すべての化学製品は「未知の危険性、有害性がある」という認識で取扱うべきであり、その危険性、有害性も使用時の環境、取扱い方、保管の状態及び機関によって大きく異なります。ご使用時はもちろんのこと、開封から保管、廃棄に至るまで、専門知識、経験のある方のみ、又はそれらの方々の指導のもとで取扱う事を推奨します。
- ・ 本安全データシートについて、ホームページ等への転載、当製品をご使用にならない方への提供をお断りします。